

海外挙式を検討した人が増加し、4割超え。ここ7年で最高に。 「ゼクシィ結婚トレンド調査2016（首都圏）」より

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長 山口文洋）が企画運営する結婚情報誌『ゼクシィ』では、新婚カップルの結婚スタイルについて詳細に把握するために、毎年「結婚トレンド調査」を実施しています。1994年に首都圏で開始した調査は、年々調査地域を拡大し、現在では北海道、青森・秋田・岩手・宮城・山形、福島、茨城・栃木・群馬、首都圏、新潟、長野・山梨、富山・石川・福井、静岡、東海、関西、岡山・広島・山口・鳥取・島根、四国、九州の15地域による全国規模の調査を実施しています。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

◆海外挙式を検討した人が増加傾向にあり、4割超え。ここ7年で最高に

「ゼクシィ結婚トレンド調査2016」にて2015年4月～2016年3月に挙式、披露宴・披露パーティを実施したカップルに対し、結婚式の検討プロセスについて調査しました。

【海外挙式の検討・実施状況（挙式実施者／単一回答）】

・海外挙式を検討した：40.2%

（10年 32.7%/11年 28.2%/12年 34.0%/13年 37.0%/14年 37.9%/15年 35.2%/16年 40.2%）

・海外挙式を検討しなかった：59.3%

（10年 65.4%/11年 62.5%/12年 64.9%/13年 61.7%/14年 61.3%/15年 63.3%/16年 59.3%）

※無回答を非掲載のため合計が100%にならない年度がある

挙式をした人のうち、海外挙式を検討した人は増加傾向にあり、約2.5人に1人は結婚式の実施場所に海外を選択肢に含んでいることがわかります。加えて言うと、検討して実際に海外で挙式を実施した人は10.1%であり、5.1%であった2010年調査から増加する結果となりました。

なお、海外挙式を検討した人の検討レベルで最も多いのは、「インターネットで検索（50.2%）」であり、2014年調査（45.0%）から4.8ポイント増加していることから、比較的、手軽に情報収集ができるようになってきていることが選択肢が広がる要因になっていることが考えられます。

◆国内か海外かの分岐は「招待したい人の数」と「出席者の負担」

では、海外挙式ではなく、国内挙式を実施した理由はどこにあるのでしょうか。

海外挙式検討者に海外挙式を実施しなかった理由を調査しました。

【海外挙式を実施しなかった理由上位5項目（海外挙式を検討したが、実施しなかった人／複数回答）】

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1位 | 多くの列席者を招待したかったため | 45.5% |
| 2位 | 出席者の体力的な負担を考慮して | 36.4% |
| 3位 | 出席者のスケジュールを考慮して | 29.2% |
| 4位 | 出席者の金銭的な負担を考慮して | 26.5% |
| 5位 | 予算の関係で | 18.6% |

海外挙式を実施しなかった理由の上位項目をみると、「多くの列席者を招待したい」といった自分の希望を叶えるための理由に加え、出席者の「体力的負担」「スケジュール的負担」「金銭的負担」といった、出席者の負担を考慮したという理由が上位に挙げられていることがわかりました。

結婚式の場所を決める際にも、自分の希望を叶えるだけでなく、自分の結婚式に招待する人の体調や状況を考慮して、実施の場所を決めているようです。

◆出版・印刷物へデータを転載する際には、「ゼクシィ結婚トレンド調査2016調べ」と明記いただきますようお願い申し上げます。

【リクルート ブライダル総研】

ブライダル総研

本調査の実査を担当する「ブライダル総研」は、を企画運営する株式会社リクルートマーケティングパートナーズにおける調査・研究組織です。結婚や結婚式に関する調査・研究、未来への提言を通じて、ブライダルマーケットの発展に貢献することを目的として活動しています。

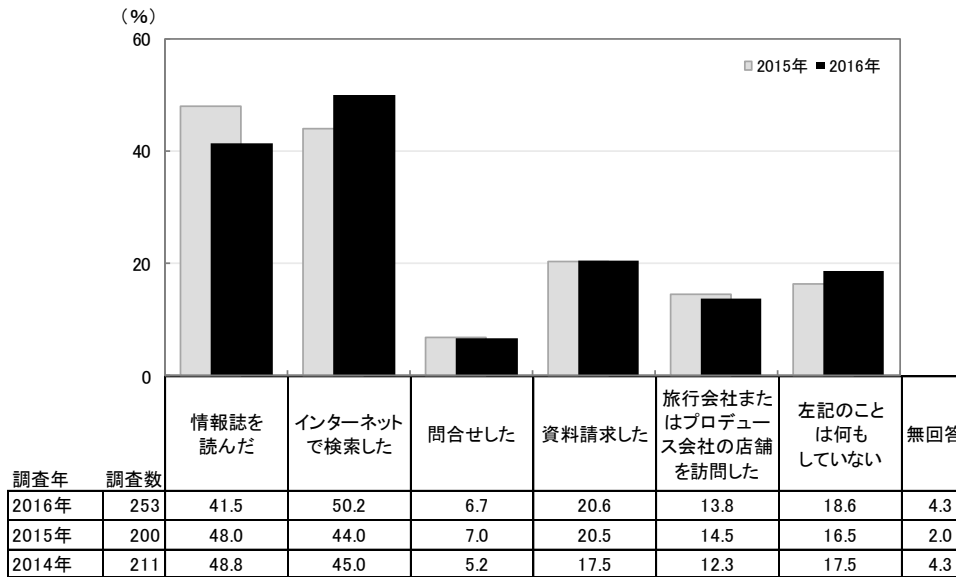
「ブライダル総研リサーチニュース」バックナンバー
ブライダルに関する豊富な調査データはこちらをご利用ください

<http://bridal-souken.net/>

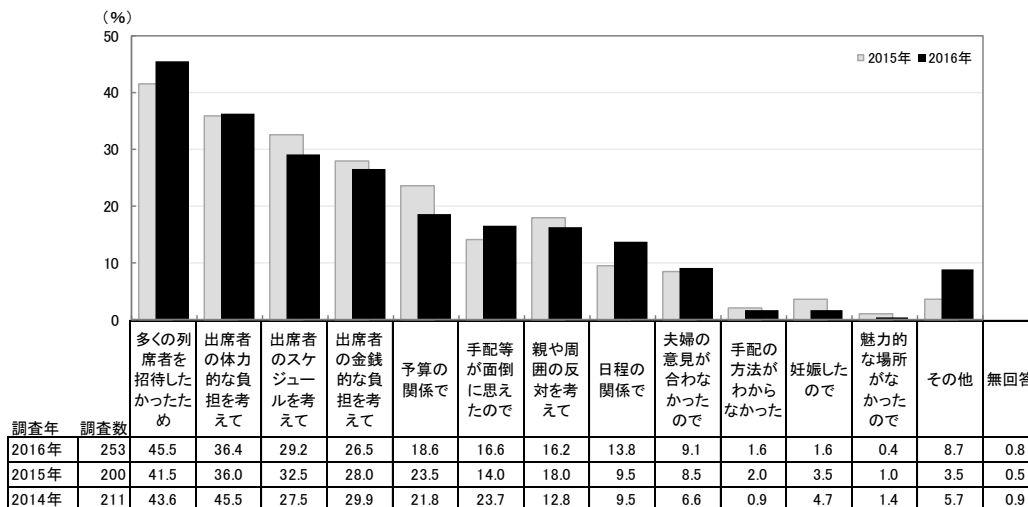
【海外挙式の検討・実施状況（挙式実施者／単一回答）】

調査年	●凡例					検討者・計
	実際に海外で挙式をした	具体的に検討したが行わなかった	少しは検討したが行わなかった	海外挙式は検討しなかった	無回答	
2016年 (n=841)	10.1%	3.3	26.8	59.3	0.5	40.2
2015年 (n=768)	9.1	2.7	23.3	63.3	1.6	35.2
2014年 (n=788)	11.2	2.8	24.0	61.3	0.8	37.9
2013年 (n=1033)	9.2	3.9	23.9	61.7	1.4	37.0
2012年 (n=912)	5.5	3.2	25.3	64.9	1.1	34.0
2011年 (n=1007)	5.2	2.1	21.0	62.5	9.3	28.2
2010年 (n=1004)	5.1	3.1	24.5	65.4	1.9	32.7

【海外挙式の検討レベル（海外挙式を検討した人／複数回答）】



【海外挙式を実施しなかった理由上位5項目（海外挙式を検討したが、実施しなかった人／複数回答）】



【調査概要】

【調査方法】 郵送法

【調査期間】 2016年4月22日～6月6日

【調査対象】 北海道、青森・秋田・岩手、宮城・山形、福島、茨城・栃木・群馬、首都圏、新潟、長野・山梨、富山・石川・福井、静岡、東海、関西、岡山・広島・山口・鳥取・島根、四国、九州の2015年4月～2016年3月に結婚（挙式、披露宴・披露パーティ）をした、もしくは結婚予定があった『ゼクシィ』読者のうち、地域ごとにランダムサンプリングし、調査票を郵送。調査票への記入は妻に依頼。

調査票発送数：13845件 調査票回収数：5521件 回収率：39.9%

【集計サンプル数】 計5223人〔北海道：330人、青森・秋田・岩手：139人、宮城・山形：205人、福島：131人、茨城・栃木・群馬：364人、首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）：856人、新潟：133人、長野・山梨：168人、富山・石川・福井：156人、静岡：203人、東海（愛知・岐阜・三重）：616人、関西（大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山）：860人、岡山・広島・山口・鳥取・島根：328人、四国（愛媛・香川・徳島・高知）：148人、九州（福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・鹿児島）：586人〕

※回収されたサンプルのうち、対象期間内に挙式または披露宴・披露パーティをどちらも実施していないものは除いています。

※地域別の集計は「結婚前の妻の居住地」で行っています。

※全国集計については、各地域の婚姻件数（平成26年厚生労働省人口動態調査）に合わせてウエイトバック集計を行った推計値を掲載しています（全国＜『ゼクシィ』発行地域外[沖縄]および熊本県を除く＞の婚姻件数合計は626562組）。

※図表中の「-」は回答なし、「0.0」は回答はあるが単位未満を示しています。

※本文中で使用している時系列のデータは、それぞれ過去に実施した同調査のデータです。調査方法、調査対象者は本年と同様です。

※2016年調査では、2016年4月に発生した平成28年熊本地震の影響を鑑み、熊本県の調査はしておりません。

※2011年調査では、2011年3月に発生した東日本大震災の影響を鑑み、「青森・秋田・岩手」「宮城・山形」「福島」「茨城・栃木・群馬」の調査は実施しておりません。そのため「全国（推計値）」の算出もしておりません。該当項目は、図表中では「*」で表示しています。

調査年	集計サンプル数 (人)														
	北海道	青森・秋田・岩手	宮城・山形	福島	茨城・栃木・群馬	首都圏	新潟	長野・山梨	富山・石川・福井	静岡	東海	関西	岡山・広島・山口・鳥取・島根	四国	九州
2015年	336	176	259	144	396	794	148	164	173	247	797	798	387	163	719
2014年	364	194	298	131	455	806	104	219	207	203	645	806	432	187	782
2013年	489	243	329	176	480	1049	144	169	239	329	669	1078	485	201	929
2012年	454	181	290	146	450	932	147	237	232	331	620	897	582	263	1078
2011年	448	*	*	*	*	1024	176	184	295	327	705	1095	572	326	1184
2010年	486	301	314	153	460	1025	177	195	319	336	733	1097	578	380	1194

※山梨県は、2011年調査まで首都圏に含み集計していましたが、2012年調査から長野県と合わせ、長野・山梨として集計しています。また、鳥取県と島根県は、2012年調査まで調査対象外としていましたが、2013年調査から岡山県、広島県、山口県と合わせ、岡山・広島・山口・鳥取・島根として集計しています。さらに、熊本県は、2015年調査まで九州に含んで集計しています。